環境用語解説

ーあ行ー

ＩＳＯ 14001
工業製品の国際規格化を目的とするＩＳＯ（国際標準化機構）が定めた環境マネジメントシステムの規格。環境方針や環境側面など 17 項目の要素と付属書から構成されています。和訳したものが日本工業規格のＪＩＳ Ｑ 14001です。

ＩＰＣＣ（気候変動に関する政府間パネル）
地球温暖化防止問題に対応するため、国連環境計画（ＵＮＥＰ）と世界気象機関（ＷＨＯ）の共催により、1988年に設置された国際機関であり、科学的知見の集積や温暖化の影響予測などの活動を行っています。

アオコ
植物プランクトンの一種で、藍藻類の俗称。窒素や燐濃度の高い富栄養化した湖沼において夏から秋にかけて異常繁殖し、湖沼の水を緑色に変色させます。

アオコが発生すると透明度が低下したり、着臭等により上水道への利用が不適当となったりします。さらに、アオコが死滅する際、悪臭を発生するとともに水中の溶存酸素を奪うため、水産や観光上重大な被害をもたらすこともあります。

アスベスト
石綿ともいい、熱や電流の不良導体であり、かつ耐火性に優れていることから、建築物の耐火材・保温材・吸音材や自動車用のブレーキ材等として使用されています。しかし、大量に吸入すると、石綿肺や肺がんなどの健康被害の原因となることから、大気汚染防止法などで規制されています。

硫黄酸化物
硫黄と酸素の化合したもので、主なものに二酸化硫黄があります。ボイラー等で硫黄を含んだ燃料を燃焼することによって発生し、人に対しては慢性気管支ぜん息など気道部に影響を与えるといわれています。

一酸化炭素
炭素化合物の不完全燃焼等によって発生し、人の血液中のヘモグロビンと結びついて体内への酸素補給を阻害し、ひどいときには窒息に至ります。

一般廃棄物
廃棄物処理法において、産業廃棄物以外のものと定義されており、具体的には、ごみ（生活系ごみと事業系ごみに区分）やし尿などを指します。

エコ・ツーリズム、グリーン・ツーリズム
エコ・ツーリズムとは、観光客が森や田園等に説明者と分け入り、動植物などの自然を観察し、生態系を体感する観光をいいます。

グリーン・ツーリズムとは、観光客が農家に宿泊し、地域の郷土料理、自然、農作業を楽しむ観光をいいます。

エコ・ツーリズム、グリーン・ツーリズムともに、欧米で余暇を自然との対話の中から、自己実現として楽しむため発展してきた観光形態です。

ＳＳ（浮遊物質量）
水中に浮遊している微細な固形物の量をいい、これが大きいほど水は汚れています。

オキシダント
大気中の窒素酸化物や炭化水素などが、強い紫外線を受け、光化学反応を起こして生成するオゾンやＰＡＮ（パーオキシアセチルナイトレート）などの総称であり、眼のチカチカやのどの痛みなどを引き起こすといわれています。

オゾン層
地上 10 ～ 50km 上空の成層圏の中でオゾン濃度の高い層をいい、太陽光に含まれる紫外線のうち特に生物に有害な波長の紫外線を吸収しています。

温室効果
大気中の二酸化炭素やメタンなどの気体が、太陽光線の熱を吸収した地表面から放射する赤外線を吸収し、地球を暖める現象を温室効果といい、こうした効果をもたらす気体を温室効果ガスといいます。

温室効果ガスには様々なものがありますが、1997 年 12 月の「地球温暖化防止京都会議」での排出削減対象となったのは、二酸化炭素（CO_2）、メタン（CH_4）、亜酸化窒素（N_2O）、ハイドロフルオロカーボン（ＨＦＣ）、パーフルオロカーボン（ＰＦＣ）、六フッ化硫黄（SF_6）の 6 物質です。

ーか行ー

カドミウム
四大公害病の一つイタイイタイ病の原因物質とされており、大量に体内に入ると慢性中毒となり、腎尿細管の再吸収機能が阻害され、カルシウムが失われて骨軟化症を起こすといわれています。

合併処理浄化槽
し尿と、台所、洗濯、風呂などから排出される生活排水を同時に処理することができる浄化槽をいいます。

環境アドバイザー制度
環境保全についての有識者や環境保全活動の実践者を「環境アドバイザー」として登録し、公民館、各種団体や学校等が主催する環境問題に関する学習会、講演会に講師として派遣、紹介する制度です。

環境影響評価（環境アセスメント）
環境に大きな影響を及ぼすおそれがある大規模な開発事業を行う前に、あらかじめその事業の実施による環境影響について、調査、予測、評価を行い、その結果に基づき、その事業の実施に当たり適正な環境配慮をする制度です。

環境家計簿
日常生活において、環境に負荷を与えてしまう行動や環境によい影響を及ぼす取組みを記録して点数化したり、月ごとに集計したりして、自分の生活様式を評価するための方法の一つです。
例えば、毎月のガス、電気、水道、自動車燃料、ごみの排出量などを記録し、評価することなどがあります。

環境基準
人の健康を保護し、および生活環境を保全する上で維持することが望ましい基準として、環境基本法第16条に基づき、政府が、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音について定めることとされています。
また、ダイオキシン類対策特別措置法に基づき、政府がダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁（水底の底質の汚染を含む。）および土壌汚染について定めることとされています。
従って、工場等を規制するための排出基準とは性格が異なります。

環境基本法
環境の保全について、基本理念を定め、また国・地方公共団体・事業者・国民の責務を明らかにするとともに、国の環境の保全に関する施策の基本となる事項を定めたもので、いわば、環境の憲法です。
平成5年11月に制定されました。

環境ホルモン
環境ホルモンは、正式には、「外因性内分泌撹乱化学物質」といい、「動物の生体内に取り込まれた場合に、本来、その生体内で営まれている正常なホルモン作用に影響を与える外因性の化学物質」と定義されています。
環境ホルモンのおそれのある化学物質として、ビスフェノールA（ポリカーボネート樹脂などの原料）、ノニルフェノール（界面活性剤などの原料）、トリブチルスズ（船底塗料などに利用する防汚剤）などがあります。

環境マネジメント
事業体の経営方針の中に、環境方針を取り入れ、その環境方針に基づいて計画を立て、実施していくという事業活動の展開をいいます。その目的は、事業活動そのものや製品またはサービスによる環境負荷および環境リスクを低減し、その発生を防止するための行動を継続的に改善していくことにあります。

環境マネジメントシステム
自主的に環境保全に関する取組みを進めるに当たり、環境に関する方針や目標を自ら設定し、これらの達成に向けて継続的に取り組むための体制や手続などをいいます。環境マネジメントシステムの仕様を定めた国際規格として、ＩＳＯ14001があります。

公害
環境基本法において、「環境の保全上の支障のうち、事業活動その他の人の活動に伴って生ずる相当範囲にわたる大気の汚染、水質の汚濁、土壌の汚染、騒音、振動、地盤の沈下及び悪臭によって、人の健康または生活環境に係る被害が生ずること」と定義されており、これら7種類の公害は、一般に「典型7公害」と呼ばれています。

公害防止協定
公害防止の一手法して地方公共団体または住民と企業との間で締結される協定をいいます。
公害防止協定は、地域に応じた公害防止の目標値の設定や具体的な公害対策の明示ができるなど、法令に基づく規制を補完する性格があります。

公共用水域
河川、湖沼、港湾、沿岸海域、その他公共の用に供される水域およびこれに接続する公共溝渠、かんがい用水路その他公共の用に供される水路のことをいいます。

光化学スモッグ
大気中の窒素酸化物や炭化水素などが太陽光線中の紫外線を受けて二次的に新たな汚染物質が生成する現象をいい、夏の日差しが強く、風が弱い日に特に発生しやすい傾向があります。光化学スモックが発生すると、眼がチカチカする、のどが痛む、胸が苦しくなるなどのほか、植物の葉などに可視被害が出ることが知られています。

ーさ行ー

里地里山（さとちさとやま）
田園地帯などで人家が集まって小集落をなしているところや人里近くにある生活に結びついた山のことをいい、人々の安らぎやうるおい、生物の多様性や環境学習などの観点から、その価値が見直されています。

酸性雨（湿性大気汚染）
雨は、もともと空気中の二酸化炭素を吸収するため弱い酸性ですが、酸性雨とは、化石燃料等の燃焼に伴い発生する硫黄酸化物や窒素酸化物を取り込むことによって、より強い酸性に変化した雨のことをいいます。
酸性雨は、1960年代から北米やヨーロッパで湖沼や森林等の生態系あるいは遺跡等の建造物などに大きな影響を及ぼすとして、問題化してきました。
なお、酸性の強さはｐＨ（ピーエッチ）で表し、ｐＨが低いほど酸性の度合いが大きいことを示します。

産業廃棄物
事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類その他について廃棄物処理法で定められています。

ＣＯＤ（化学的酸素要求量）
水中の有機物を酸化剤で化学的に分解した際に消費される酸素量で、湖沼、海域の有機汚濁を測る代表的な指標です。ＣＯＤが大きいほど、汚濁が進んでいることになります。

地盤沈下
地下水の過剰揚水によって帯水層の水位が低下し、粘土層の間隙水が帯水層に排出され、その結果、粘土層が圧密

収縮を起こし、地表面が広い範囲にわたって徐々に沈下していく現象です。地盤沈下の進行は緩慢で確認しにくく、また、いったん沈下するとほとんど復元は不可能だといわれています。

新エネルギー

「新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法（新エネ法）」において、石油代替エネルギーであり、経済性の面から普及が十分でなく、その導入促進を図ることが特に必要なものと定義されており、太陽光発電、風力発電、バイオマス燃料製造、地熱発電などがその代表です。

３Ｒ（スリーアール）

廃棄物の発生抑制（Reduce：リデュース）、再利用（Reuse：リユース）、再資源化（Recycle：リサイクル）の頭文字をとった言葉です。資源の消費を抑制し、環境への負荷を低減する循環型社会を構築する手段です。

生物多様性

①地域ごとにさまざまな生態系があること、②いろいろな種の生物が生息・生育していること、③同じ種でも遺伝子のレベルで何通りもの違いがあることを示す言葉です。

生態系

生物（有機物）と生物を取り巻く非生物的な環境（無機物）が互いに影響を及ぼしながら、太陽の光と水から生命（エネルギー）の循環を作りだすシステムのことで、身近には、森林、草原、湿原、湖、河川、海岸など小規模なまとまりのある地域に存在しています。

ーた行ー

ダイオキシン

ダイオキシン類とは、ポリ塩化ジベンゾ－パラ－ジオキシン（ＰＣＤＤ）類、ポリ塩化ジベンゾフラン（ＰＣＤＦ）類およびコプラナーポリ塩化ビフェニル（コプラナーＰＣＢ）類の総称をいいます。

大気汚染常時監視テレメータシステム

自動測定機で連続測定した大気汚染物質の濃度等のデータを、無線や専用電話回線を利用して中央監視局に送信することにより、集中的に管理するシステムです。

炭化水素（ＨＣ）

メタンを除く炭化水素（「非メタン炭化水素」という。）は、光化学オキシダントの原因物質の一つと考えられており、自動車、塗装工場、有機溶剤使用工場やガソリンスタンドなど、種々の発生源から排出されています。

地球温暖化

地球の温度は、太陽からの日射エネルギーと、地球から放出される熱放射とのバランスによって定まります。加熱された地表面は赤外線を放射しますが、大気中には赤外線を吸収する「温室効果ガス」があり、地表面からの放射熱を吸収します。

二酸化炭素など温室効果ガスの濃度増加により、平均気温が上昇する現象をいいます。

窒素酸化物

窒素と酸素が結合した化合物で、一酸化窒素や二酸化窒素があり、ボイラーや自動車等から排出される代表的な大気汚染物質の一つです。

呼吸器系疾患の原因物質の一つとされています。

中間処理

埋め立て等の最終処分に対して、焼却や破砕等を中間処理といいます。

ーな行ー

ナチュラリスト・ナチュラリストリーダー

一般には、自然に関心を持って積極的に自然に親しむ人や自然の動植物を観察・研究する人のことを指しますが、県ではこれらの人を「ナチュラリスト」として登録することにより、本県の優れた自然環境を県民の方が守り育てていこうとする活動を支援しています。

また、ナチュラリストのうち観察会の指導員として活動する人を「ナチュラリストリーダー」として登録しています。

二酸化硫黄（ＳＯ$_2$）

燃料中の硫黄分は燃焼すると、ほとんど二酸化硫黄として排出されます。二酸化硫黄は無色で刺激臭のある気体で、粘膜質、特に気道に対する強い刺激作用があります。

二酸化窒素（ＮＯ$_2$）

燃料中の窒素分や空気中の窒素が酸化されて生成する、赤褐色で刺激性の気体です。

ーは行ー

廃棄物最終処分場

廃プラスチック類やゴムくずなどを処分できる「安定型」、安定型に処分できる５品目以外の廃棄物で有害物を含まないものを処分できる「管理型」、有害なものも処分できる「遮断型」の３種に分類されます。

なお、本県には、遮断型の最終処分場はありません。

ハイブリッド自動車

複数の動力源を持つ自動車を意味しますが、ガソリンエンジンとモーターで走るものが一般的です。

ＰＲＴＲ法

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」の通称で、ＰＲＴＲは、環境汚染物質排出・移動登録（Pollutant Release and Transfer Register）の略です。

有害性のある化学物質の環境への排出量を把握することなどにより、化学物質を取り扱う事業者の自主的な管理の改善を促進し、化学物質による環境の保全上の支障が生ずることを未然に防止することを目的とする法律です。

ＢＯＤ（生物化学的酸素要求量）

水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素量で、河川の有機汚濁を測る代表的な指標です。BOD が大きいほど、河川の汚濁が進んでいることになります。

ビオトープ

「野生生物の生息空間、生物の回廊」などと訳され、多種類の動物・植物が一つの生態系を構成し、共同体として生息･成育できるあるまとまりを持った環境を意味します。原語はドイツ語です。

砒素

金属と非金属との中間的性質を持つ元素であり、化合物は毒性が強いです。

自然界にあっては、主として、銅・鉄・水銀・ニッケルなどの鉱物と共存し、自然水中に溶出することがあり、地下水に溶出した場合、その汚染が問題となるケースがあります。平均的な含有量は、海水中で 2.3 μ g/ ℓ 、地殻中で 0.5mg/g です。

ｐＨ（水素イオン濃度指数）

水質の酸性やアルカリ性を示す指標であり、ｐＨ７は中性、それ以上はアルカリ性、それ以下は酸性を意味します。

フォレストサポーター・ジュニアフォレストサポーター

フォレストサポーターは、県が認定する、県民や児童生徒への森林・林業に関する知識の普及や森林の案内、野外活動等のボランティア活動の指導者のことです。

また、ジュニアフォレストサポーターは、小・中・高・大学生を対象に県が認定している、森林・林業に対する高い意識と知識を身につけたボランティア活動のリーダーのことです。

富栄養化

窒素・燐を含む物質が湖沼等の閉鎖性水域に流入し、プランクトン等水生生物が増殖することに伴ってその水質が悪化する現象をいいます。

浮遊粒子状物質

浮遊粉じんのうち、10 μ m 以下の粒子状物質のことをいい､ボイラーやディーゼル自動車の排ガス等から発生し、気道や肺に沈着して人体に悪影響を与えるといわれています。

フロン

ふっ素と炭素等からなる化合物で、クロロフルオロカーボン（ＣＦＣ）、ハイドロクロロフルオロカーボン（ＨＣＦＣ）などがあります。オゾン層を破壊する原因物質の１つとされており、破壊する程度の強いフロンは生産が全廃されています。

主に、冷蔵庫やカーエアコン等の冷媒、精密機械等の洗浄剤､エアゾール製品の噴射剤などに使用されてきました。

閉鎖性水域

湖や湾など、その形状から水の循環が悪い水域のことをいい、水質の悪化を来たしやすい傾向にあります。

ーま行ー

マニフェスト制度（産業廃棄物管理票制度）

産業廃棄物の排出事業者は、その収集運搬または処分を他人に委託する場合には、必要事項を記載した産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付しなければなりません。この産業廃棄物管理票制度とは、産業廃棄物の処理の各工程（収集運搬、中間処理等）ごとに終了の報告を受けていくことで、委託した産業廃棄物が適正に処理されたことを排出事業者が確認する制度です。排出事業者は、最終処分の終了を確認するまで、自らが排出した産業廃棄物についてその処理の責任を負うことになります。

ーや行ー

有害大気汚染物質

低濃度であっても長期的な摂取により健康影響が生ずるおそれのある物質のことをいい、該当する可能性のある物質として 234 種類、そのうち特に優先的に対策に取り組むべき物質（優先取組物質）としてトリクロロエチレン等 22 種類がリストアップされています。

ーら行ー

ラムサール条約・ラムサール条約登録湿地

湿地の保護と利用管理を目的とした国際湿地条約で、正式名称を「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といい、1971 年（昭和 46 年）イランのカスピ海沿岸の都市ラムサールで採択されました。

条約では国際的に重要な湿地をラムサール条約湿地として登録し、その湿地の保全・再生と賢明な利用（wise use）を進めていくことが求められています。

冷媒

冷凍機や冷房機内を循環して、圧縮による液化・放熱、気化・吸熱を繰り返し、冷却するための媒体として用いられる物質で、アンモニアやフロンなどがあります。